

# 腸もれ・リーキーガット症候群

## 米国 Doctors Data 社のゾヌリン検査

### 期間限定キャンペーン

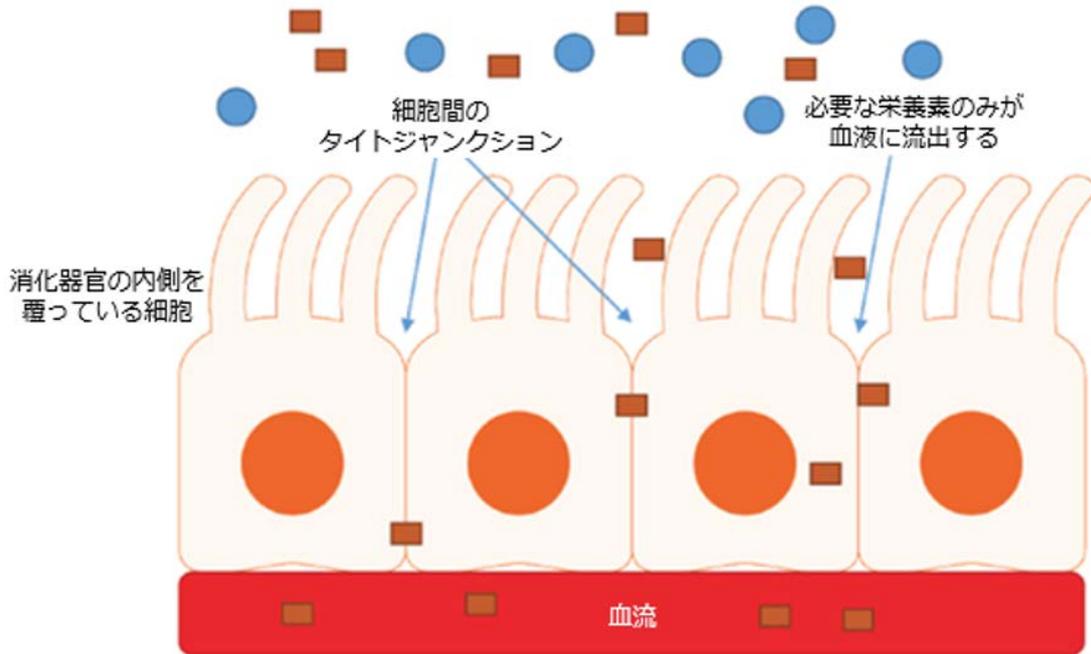
最近、日本人にも多くみられる腸もれ・リーキーガット症候群。これは、簡単に言えば腸に穴が空いた状態をいい、本来は透過しない細菌や未消化の巨大分子が腸壁に空いた穴を通じで血流に流れ込み様々な症状を引き起こします。腸もれの状態がひどくなるまでは、あまり自覚症状がないのも特徴の一つで、症状が現れるころには複数の病気を同時に引き起こしていることも少なくありません。弊社では、手遅れになる前に腸もれの検査を定期的に行うようお勧めしています。特に、精度が高いといわれるゾヌリン検査（検体：血清）は国内外の医師より注目を集めています。

#### 腸漏れの一般的な症状：

- 食物アレルギー
- 消化器系の問題(ガス・下痢・便秘・腹部の張り)
- 更年期障害
- 慢性疲労
- うつ症状
- 自己免疫系疾患  
(リュウマチ・橋本病・ループス・乾癬・セリアック病)
- ADD/ADHD
- ニキビ
- 湿疹
- 季節の変わり目で起こるアレルギー
- 喘息
- 多嚢胞性卵巣症候群
- 線維筋痛
- 不安障害
- 自閉症
- カンジタ菌（異常増殖）
- 酒さ

原因は、農薬・投薬・偏った食事・不規則な生活習慣・ストレス・アレルギー・腸内細菌叢多様化の欠如などが挙げられます。

### 正常な腸細胞間のバリア機能



### グルテン摂取により崩壊した腸細胞間のバリア機能

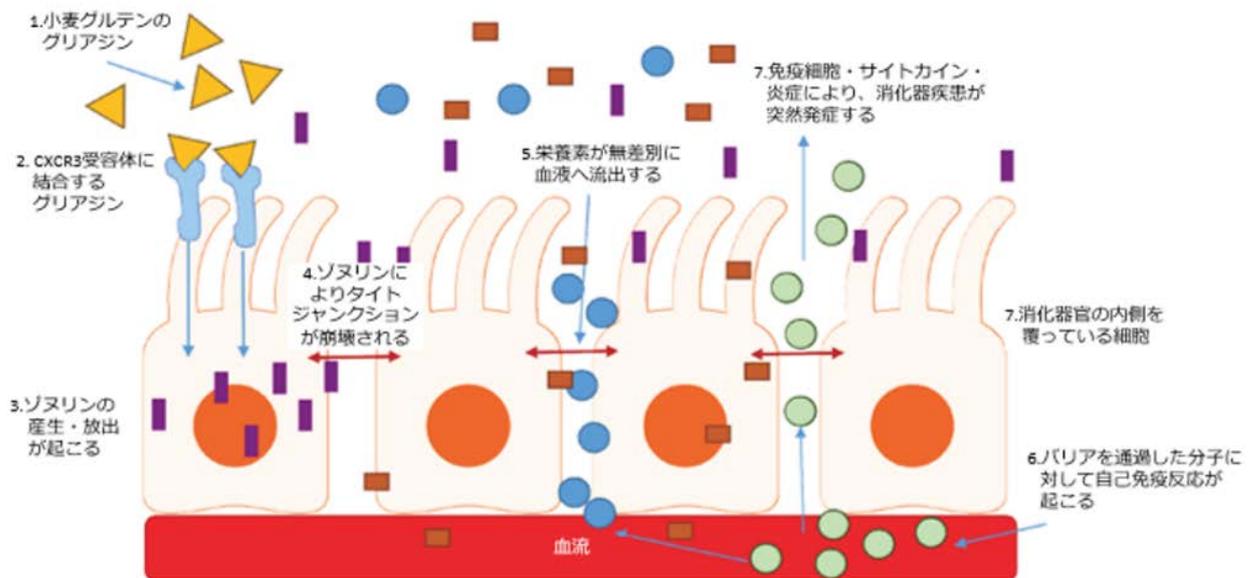


Image courtesy of ALPCO, Salem, NH

### 検査結果の見本：

ドクターズ データ社のゾヌリン検査の基準値は 45 ng/ml ですが、臨床的には 40 ng/ml レベルから炎症・自己免疫疾患の症状があると確信して良いです。



### ゾヌリン検査の正確性：

標準誤差が出やすいことで知られる免疫測定法は、現在広く受け入れられているものであっても 20%近くあると言われています。一方で、ゾヌリンの免疫測定法は標準誤差がわずか 10%であり、その正確性は欧米の医師より支持されています。

### 検査後の治療：

#### 1) 胃腸粘膜バリアー回復のためのサプリメント

※弊社からはピュア エンキャプスレーションズのサプリメントをご案内致します。

- **L-グルタミン**：腸管細胞を活性化
- **アロエベラ**：健全なプロスタグランジン (PGE1) の代謝、免疫メディエーターの活性、腸管内の酸化代謝物から腸管を守る
- **オメガ-3 脂肪酸 (EPA・DHA)**：特に EPA は腸粘膜の炎症を抑える
- **ガンマリノレン酸**：健全な PGE1 の促進と免疫をサポート
- **クルクミン**：腸粘膜の炎症を抑える

- **ケルセチン**：腸粘膜の炎症を抑える
- **亜鉛**：細胞の組成に必要な補酵素
- **ベータカロチン**：免疫をサポート
- **パントテン酸**：副腎へのストレス改善に役立つ
- **ビタミンC**：すべてに必要なビタミン

2) 腸管浸漏症候群の潜在的な原因（腸内環境、免疫、炎症、栄養状態など）を更に調査する場合は、[総合便検査（Comprehensive Stool Analysis \(CSA\)）](#) が検討されます。こちらもドクターズデータ社の検査であるため弊社よりご提供可能です。

詳細は弊社までお問合せください。

E-mail: info@detox.jp

Fax: 03-3222-5770

Tel: 03-5876-4511